

スペシャルインタビュー



(C) スミス景明

目黒陽介さん

◎目黒さん主宰の「ながめくらしつ」とは、どんな活動をしているのでしょうか？

ながめくらしつは「ジャグリング & 音楽集団」です。モノと身体と音楽が融合した舞台空間をつくりたいと、身体表現としてのジャグリングによる集団創作を2008年から行っています。この数年はエアリアル・ダンス・アクロバットなどジャグラー以外のアーティストとコラボレーションしたり、シアターラムのような大きな劇場での公演の機会もいただいたりする中で、「現代サーカス」として国内外でも評価されるようになってきました。海外のそれとは異なりますが、日本人の自分たちがつくる「日本発・現代サーカス」を見つけていきたいですね。

◎野毛大道芸で上演する2つのスペシャルプログラムの見どころを教えてください！

今回は「ジャグリング」と「現代サーカス」をあえて別々のショーとして演じます。自分はジャグラーなのでこの2つそれぞれに対して持つ視点が少し違います。最近のながめくらしつではジャグリングだけのショーをやるよりもジャンルを超えた、一体化したもののクリエイションに関心を持って取り組んできましたが、それをまた分解して再構築することで、いつもとは少し違う見

1985年生まれ。ジャグラー。14歳でジャグリングを始め、大道芸デビューは17歳。ボール、ディアポロ、リングのほか、オリジナルの道具を使った音楽との融合性の高いジャグリングのパフォーマンスには定評がある。2008年より演出・振付家として自身が中心となったジャグリング & 音楽集団「ながめくらしつ」を結成。2013年10月よりエアリアルアーティスト・長谷川愛実とのユニット「うつしおみ」としても活動中。

どころや見せ方をお客さんに提示できるのではないかと考えています。

ちなみに、現代サーカスを屋外の大道芸で上演するのは本邦初(笑)今まで舞台公演に来られなかった人や現代サーカスに興味がある人にはぜひ体験してもらおう機会になればと思っています。ソロのショーでは表現できない集団で行うジャグリングならではのシークエンスや構成の面白さ、テクニクは日本では珍しいものなので、ぜひお見逃しなく！ながめくらしつ結成初期から大事にしている「音楽が生演奏であること」も重視しました。どちらの上演も、現代音楽家・イーガルの生演奏です。そのライブな演奏や2つのショーの空気感の違いを味わってもらおうのも面白いと思います。僕は、2つの作品に出演と演出を行いますので…なかなか大変なことになっています(笑)今まで追求してきた2つのことを一気に見られる“まさにスペシャルな企画”となっていますので、ぜひ見に来て下さい。

◎かんばらさんには今回「O.F.F.」というユニットでご出演いただきますが、そもそも車椅子ダンスを始めたきっかけは何でしたか？

SLOW MOVEMENT(スロームーブメント)という団体のパフォーマーの募集でした。パフォーマーは、YAMAHAさんが開発されているパフォーマンス専用の車椅子に乗れると書いていたので応募しました。タイヤに太鼓が付いていたり、全体が白いデザインになっていて非常にカッコよく魅力的でした。SLOW MOVEMENTは、くるくるシルクDXのメンバーでもある、金井ケイスケさんがパフォーマンスディレクターもされています。

◎ダンスを初めてわずか半年後に、いきなりリオパラリンピックの開会式に出演されていますね。

観客の歓声で、地面が揺れ、空気まで震えていたことが印象的でした。

◎そして今年は大道芸のフィールドにデビューです。

普段の車椅子ダンス公演だと、お客様は福祉やパラリンピック関係の方などで、障害に興味の無い方はあまり来ません。今は興味のない方にもパフォーマンスを観てもらおう機会を作るために大道芸の活動をはじめ、昨年は東京へブナーティストのライセンスを取得しました。今は2020年の東京パラリンピックに向けて、空中芸のパフォーマンスも練習しています。パフォーマンスを通して、東京パラリンピックを盛り上げていきます！

かんばらけんたさん



1986年生まれ。車椅子ダンサー。「二分脊椎症」という障害を持って生まれ、システムエンジニアとして働く。2015年、SLOW LABEL『スロームーブメント』に車椅子ダンサーとして出演したことをきっかけに表現活動を始め、現在は「Integrated Dance Company 響 Kyo」にも所属。2016年にはAyaBambiとの共演や武道館でのソロ出演など、活動の幅を広げている。

